

# F コース <富丘地区> 風祭の里を歩くコース

— みどころ —

潤井川に注ぐ風祭川では、かつて豊作を祈る風祭が行われていた。また、この地域には豊富に湧き出す湧水を利用した養鱒場が広がる。水の恵みを受ける水辺のまちを歩く。

みどころポイント 湧水  寺社  

## スタート

富丘交流センター  
青木300-1



①熊野神社



②安立寺



③先照寺



④丘路八幡宮



⑤石幢



⑥松原



⑦渋沢遺跡



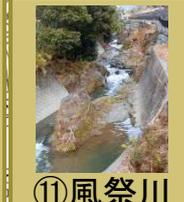
⑧出水



⑨金之宮神社



⑩大石寺道道標



⑪風祭川

ゴール

距離：約5km 所要時間：約2時間

マークの凡例： 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ  駐車場  寺院  神社  湧水   
石造物  写真撮影ポイント  季節の花  富士山眺望ポイント  ルート —

## — コースのみどころ —

### ①熊野神社

元は松尾神社が祀られていたといわれるが、江戸時代に熊野神社が移され、松尾神社は熊野神社の境内社となった。境内にはイチヨウの大樹(市保存樹)がある。また、境内やその周辺には、明治時代に合祀されたという稲荷社や石造物などがある。

### ②安立寺

日蓮宗の寺院で、明治7年(1874)に本堂を利用して青木村の小学校「新曦舎」が開校した。当時使用された本堂が現在も残されている。

### ③先照寺

曹洞宗の古刹で、浅間神社大宮司の帰依を受け、純白融清が応永6年(1399)に開山したという。かつて多くの末寺を持っていた大寺の姿が長い参道にしのぼれる。境内には六地藏、六観音、巡拝塔などがある。

### ④丘路八幡宮

かつて青見村の氏神として祀られ、拝殿で重病人の命乞いや雨乞いの念仏講が行われたという。境内社の綱敷天満宮には、戦国時代の軍師 山本勘助が護身用に持ち歩いたと伝えられる背負い厨子や綱敷天神像が祀られている。

### ⑤石幢

石幢とは、六角柱や八角柱の幢身(胴体)に経文や仏像を刻んだ石塔である。これは明和2年(1765)の造立で、高さは75cm、六角柱の各面に地藏菩薩の浮き彫りがある。

### ⑥松原

明治41年(1908)の大洪水で潤井川堤防が決

壊し、復旧工事の際、喜楽橋から身延線鉄橋までの堤防上に松が植えられ「松原」と呼ばれていた。富丘橋下流の堤防に当時の面影がわずかに残っている。

### ⑦渋沢遺跡

市内の弥生時代中期の代表的遺跡である。潤井川と風祭川との合流点東側にある舌状台地の先端部に位置する。ここは、弥生時代には、背後に採集のための台地、前方に水田に適した低湿地が広がっていたと考えられる。

### ⑧出水

「出水」とは湧水のこと、丘陵の崖下付近から豊富に湧き出している。水源から下流にかけては湧水を利用した養鱒場が点在する。水源近くには竜神の水神碑がある。

### ⑨金之宮神社

祭神は、カナヤマヒコ、カナヤマヒメ、コノハナサクヤヒメである。昔は「金之宮子安神社」と呼ばれた。かつては浅間大社の末社であり、昔は浅間大社流鏑馬祭の行列がこの神社から出発していたという。

### ⑩大石寺道道標

「右おおみや道」「左是より午とめ」と刻まれている。ここは大宮町(現市中心部)から大石寺への道筋に当たるので、大石寺への道標だと考えられる。

### ⑪風祭川

風祭川では風の神を祭る風祭が行われていたという。風の神は丁重に祀れば豊作をもたらし、怠ると作物に大きな被害をもたらすという。風祭の際の祭壇を示すといわれる石が川の中に残されている。